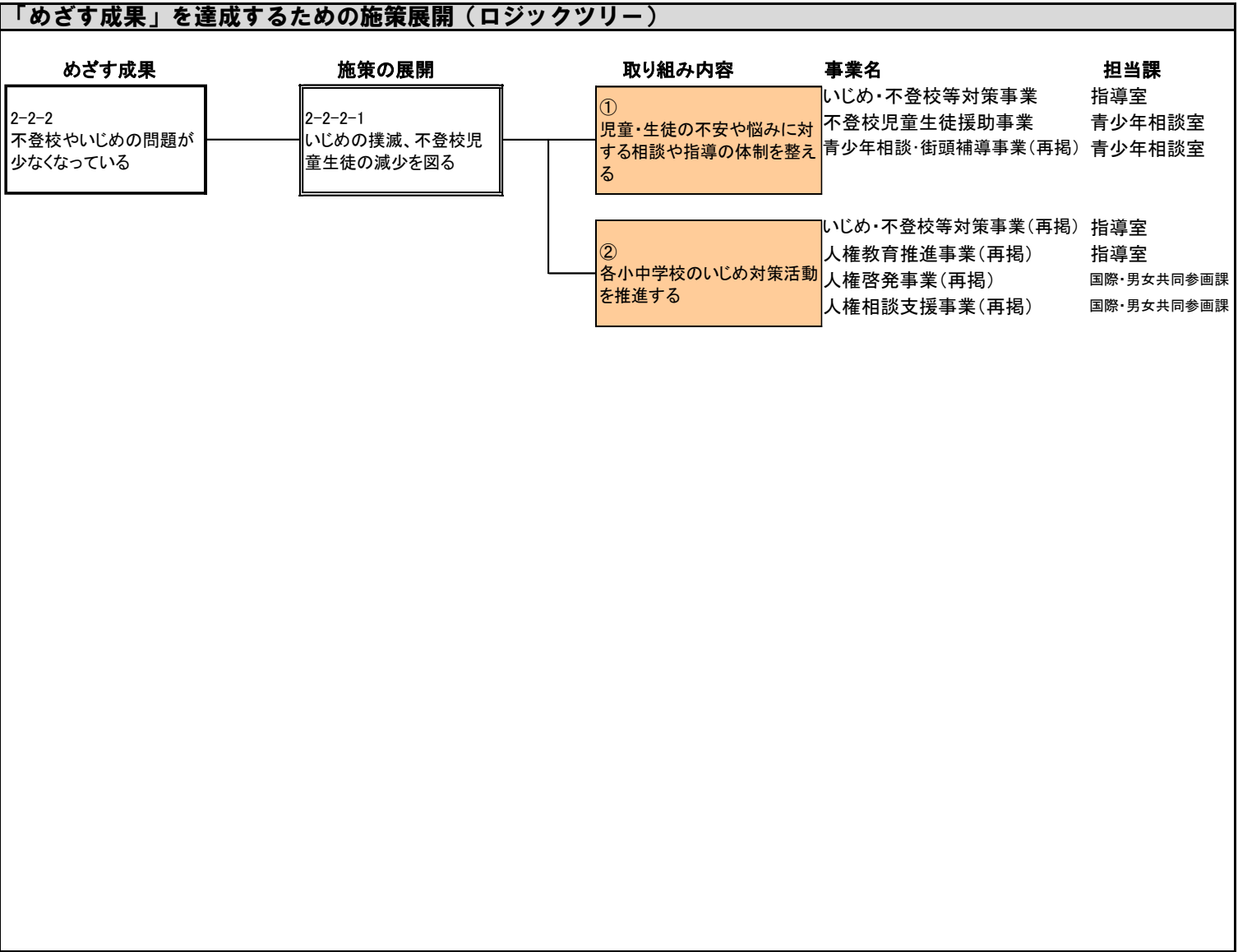


平成28年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
2-2-2 不登校やいじめの問題が少なくなっている		
総合計画体系	健康領域・基本目標	人の健康・子どもが生き生きと育つまち
	個別目標	子どもの生きる力を育む
	めざす成果	不登校やいじめの問題が少なくなっている
		不登校やいじめで苦しむ児童・生徒への支援体制が整い、未然防止や早期対応による解決が進んでおり、子どもが毎日安心して学校に通っています。



成果を計る主な指標	指標の名称		前期基本計画			後期基本計画			
			計画策定時 (H20)	最終目標値 (H25)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	中間目標値 (H28)	最終目標値 (H30)
	① 不登校児童・生徒の割合	小			0.40%	0.51%	0.58%	0.29%	0.25%
		中	4.54%	3.00%	3.52%	3.19%	3.34%	2.51%	2.22%
	② いじめ問題の解消率	小			95.4%	96.0%	98.1%	100.0%	100.0%
		中			98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

所 管 部	教育部
-------	-----

平成27年度までの取り組み内容	【いじめの撲滅、不登校児童生徒の減少を図る】 - 初任の教職員や小中学校へ入学した児童生徒の保護者を対象に、いじめ問題を周知啓発するリーフレットを配布（毎年実施）しました。また、いじめ発見のための児童生徒対象のアンケートを全小学校で実施し、一人ひとりの現状の把握に努め、年間3～4回のいじめ認知件数、長期欠席者の調査を行うことや、いじめ暴力行為防止ポスターコンクール・いじめフォーラムなどを通していじめ問題への啓発を行うことで、いじめの未然防止・早期発見・早期対応につながりました。 - 小学校において校内指導体制の充実を図るため、児童支援中核教諭を全校に配置し、児童指導の中心的な存在として効果的な役割を果たしました。 - 小学校5，6年生及び中学校1，2年生を対象に集団アセスメントを実施し（市立小中学校の1／3）、客観的な結果を踏まえて、集団作りの技術を取り入れることにより、不登校を出さないための教職員の指導力の向上、早期発見・早期対応による解決につながりました。 - 教職員に対しては、共通認識を持って児童・生徒を理解し問題解決を図るため、学校に出向き校内研修等で指導・助言をしました。 - 不登校児童生徒が通室する学校外の施設として教育支援教室（まほろば教室）を197日開室しました。 - 不登校児童生徒の学校復帰を目指してカウンセリング、学習支援、人間関係づくり等の援助を行いました。
-----------------	--

構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）	- これまでの取組により一定の成果が見られますが、いじめ問題は、いつ・どこでも、誰にでも起こる可能性があることから、今後も新しい手法も取り入れながら、継続して対応していくことが求められます。 - 主観的な判断だけでなく、客観的に判断し組織的に対応することが必要であり、集団アセスメントの結果を有効に活用することが望まれます。集団アセスメントでは、問題行動の加害者・被害者とも、特徴的な結果が現れる傾向が強いため、特に力を注ぐ必要のある小学校5年生、中学校1年生の全児童生徒を対象に実施します。 - これまで実施してきた児童生徒指導に関する研修会は、各学校の代表者が出席する形式であり、教員全体への周知に課題がありました。このため、指導主事が直接各小中学校に出向き、全教員を対象とした訪問研修を新たに実施します。 - スクールソーシャルワーカー等の派遣により、不登校の初期対応を行ってきましたが、不登校の原因が複雑化しています。不登校の原因について学校と連携して分析し、きめ細やかな対応を行う必要があります。
-------------------------	---

今後の展開方針		注）例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。
新規事業の立案		（該当する事務事業）
既存事業の拡充	- 児童生徒の客観的判断を進めるため、特に力を注ぐ必要のある小学校5年生、中学校1年生の全児童生徒を対象に集団アセスメントを実施します。 - 不登校児童支援員を重点小学校に配置します。	（該当する事務事業） - いじめ・不登校等対策事業 - 不登校児童生徒援助事業
事業の廃止・縮減		（該当する事務事業）
事業の効率化		（該当する事務事業）
その他見直し		（該当する事務事業）